

「木質ボードの耐力面材」 (2018年版) 質問・回答

2023年5月17日

整理番号	ページ	質問	回答
1	2	耐力面材を両面貼りする場合に、受材に関する条件（断面や留付け釘）は変わらないか。	リーフレットで説明する告示には、耐力壁を両面貼りにする場合の記載はありません。ただし、告示と内容の関連がある平成30年度建築基準整備促進事業「S27 木造建築物の耐力壁に係る基準の合理化等に関する検討」における実証実験では、「受材を両面の面材で共用する場合は、受材を留め付ける釘の本数を2倍以上にする必要がある」旨の結果が得られていますので、参考にしてください。
2	6	「●小開口付きの耐力壁とする場合」について 軸組構法住宅の場合については、図の箇所に出典が示されているが、枠組壁工法の場合についての出典は何か。	日本建築センター「'76 枠組壁工法による住宅設計の手引」（監修：建設省住宅局住宅生産課・建築指導課）P.83に、「耐力壁となる壁に換気扇取り付けなどのために、開口を設ける場合は、その大きさが47cm×47cm以下、すなわちたて枠とたて枠の間に設けた開口部で、開口部上・下を寸法型式204で補強すれば、耐力壁として扱うことができます。」とされています。
3	6	「●小開口付きの耐力壁とする場合」について 図の「穴径がL/2（50cm程度）までなら、四周を受材等で補強して面材を釘打ちすれば可」と指している箇所は対角寸法のようなのだが、これで良いのか。	目安として掲載した図の出典「木造軸組住宅設計の許容応力度設計(2017年度版)」(日本住宅・木材技術センター)P.60には、「・・・径50cm程度（四角の場合は対角寸法）の換気扇の孔を最大限とする」とありますので、十分に補強するようお勧めします。